

新改革プランの策定に当たって、改めて選択し得る経営形態について検討した結果、地域の基幹病院として、救急、小児といった公立病院に求められる医療を守っていくことが市立病院の役割となる以上、経済性を優先した病院経営が行なわれる可能性がある指定管理者制度の導入及び民間譲渡は選択の対象外と判断しました。

また、経営形態に起因する様々な課題を解決するためには、最も経営の自由度が高い地方独立行政法人化が最適な経営形態であると想定していますが、まずは、新改革プランの対象期間である平成32年度まで着実に経営の効率化の取り組みを進め、新改革プランの数値目標の達成という成果を確実にあげていくとの考えから、現時点で経営形態の見直しは予定していません。今後においても、経営の透明性を確保するとともに、保健や福祉政策なども含めた総合的な視点により、地域に根差した医療を提供していきます。

## 7 病院の整備に向けた取組

南空知医療圏域は、人口減少・少子高齢化の日本の近未来の姿を先行した地域であるからこそ、地域医療構想を踏まえ、急性期病床の減床、回復期リハ病棟の増床など、地域のニーズに合わせた病棟・病床の数量及び質の病院運営を行う必要があります。

また、今回の地域医療構想において、実態として、人材確保の面から鑑みても、規模の拡大が困難な小規模病院は淘汰されていくものと推測できます。

南空知医療圏域における地域医療を維持するために、高齢者のみならず、勤労世代や若年層などの全ての住民が、安心・安全に生活できるよう、自治体病院における病床数及びその機能の再編・統合を図ることが必要な施策であると考えます。

三笠市において、これからも地域の医療を守り続けていくためには、南空知医療圏域における地域医療構想との整合性を図りつつ、医師確保や経営安定を図り超高齢化社会に対応した効率的・効果的な医療提供体制を実現する必要があります。

三笠市としては、医療資源の集中による病床機能の再編等が望ましい方策であるが、一朝一夕に取り組める問題ではないことから、引き続き経営の効率化に取り組み、これ以上の経営悪化を招かないようにしながら現在の病院の維持に取り組むことと並行して、あらゆる広域連携を視野に検討することが必要と考えます。

## 8 実施状況の点検・評価・公表

新改革プランの実施状況の点検及び評価は、今年度実施した市政懇談会で市立病院のあり方に関して市民に説明し、様々な意見を頂いていることを踏まえ、今後も市政懇談会で実施状況の点検及び評価いただくこととします。また、実施状況の公表については、広報みかさや市及び病院ホームページに掲載することとします。

## 9 結びに

わが国では、高齢化の進展に伴い、慢性疾患や複数の疾病を抱える患者が新たに手術や高度な医療も必要な疾患に罹患することだけでなく、その後のリハビリが必要となる患者、在宅で

暮らしながら医療を受ける患者が増加しています。

このような疾病構造の変化、多様化する医療ニーズを踏まえた体制の整備が急務となっており、医療のあり方として、疾病の治癒と生命の維持を主目的とする「治す」、「キュア中心」の医療から、慢性疾患や身体機能の低下を抱えても生活の質を維持・向上させ、身体・精神・社会的に包括的な健康増進を保つことを目指す「治し、支える」、「ケア中心」の医療へ転換が求められています。

いわゆる団塊の世代が75歳以上となる平成37年（2025年）に向けて、高度急性期から在宅医療まで、患者の状態に応じた適切な医療を地域において効果的かつ効率的に提供する体制（地域包括ケアシステム）を構築することです。

医療介護総合確保推進法の下では、地域における質の高い医療の確保、医療・介護の一体的な基盤整備の一環として医療機能の分化・連携の強化、在宅医療の充実や医師・看護師等の医療従事者の確保対策、勤務環境の改善、チーム医療の推進などが、病院に関する具体的な課題として進められており、市立病院は地域医療の担い手として、各自治体で推進される地域医療構想に積極的に関わりを持ち、具体的な活動を通じて、存在価値を示していく必要があります。

一方、医療の高度化・複雑化に伴って業務はますます煩雑化してきており、限られた人的、財政的資源のなかで、高度で良質で患者満足度の高い医療を提供するという厳しい医療環境にあります。

これらの課題克服のためには、医療関係者間の専門性を活かした緊密な連携が不可欠となっています。

今後においては、南空知医療圏内における自治体や隣接する自治体等の広域連携が必要であることは言うまでもありませんが、当該自治体等の枠を越えて取り組みを実施するためには、北海道や北海道医師会等の協力が不可欠であることから、地域医療構想を踏まえ、北海道が責任を持って主体的に関わり、医療に関する必要な事項についての情報共有や検討する場合等にご支援いただけることを切に願うものであります。